

論 説

2024・1・5

搜索と救出一刻も早く

「北陸地震」一帯を襲った大地震は、せんじやくの被災地といつて未だ有る災害となつた。全國からの応援部隊を含めた自衛隊、警察、消防など関係機関の懸命な捜索活動が続いている。生存率が低くなるといわれるが時間が過ぎたが、手付かずで孤立した地区もあるといつて。人の命の救出に全力を尽していた。

石川県珠洲市の海岸沿いの漁港

群には漁船に船われたり、漁に捕れで倒壊した橋脚が目立つ。輪島市中心部の朝市通りは約200棟が焼失し焼け跡をなつた。職務な光景が地震の大規模な物語る。

1日SNS発生時に震度7を観測した志賀町の揺れの最大加速度は2.82の「強烈度」。2001年の東日本大震災で震度7だった宮城県栗原市での3.4度に匹敵する大きさだった。輪島市や珠洲市で観測された揺れでは、木造家屋大1~2秒の地震波が多くつた。これは1995年の阪神大震災で建物被害が甚大だった神戸市内の揺れと似ているといつて。

能登では地下深部の流体に起因する拡張地震が3年前から続いている。それが引き金となって崩壊の断層を連續的に構成し、巨大な揺れとなつた可能性は否めない。

犠牲者の多いは押しつぶされた床屋の下巻きになつた。今も静じぬおられた姿の中で助けを待つ住民たちが心を惹かれるが、床屋の倒壊がおれの口に詰まつた。金剛が相撲こなれていた。行方不明者の人数も分からなくなつた。

捜索がほかならない要因の一つは道路が寸断されたためだ。金沢市と真庭郡佐伯町「大畠原」と「黒山尾瀬」の一部の通行止めが続いているほか、各郷で止めておられた道路が土砂崩れや陥没で通行不能となり、十分な資機材や人員が届いていない。災害派遣医療チーム(DMAT)の現地入り口にも影響が出しており、避難所等の衛生や健康管理も難しかる。

被災地では「ヒントタイプ等で車両も運搬に困ることが多く、食料や水資材が不足している」被災地も少しそうだ。被災地では金沢市で大変帝も危険でいるが、災害管理体制も徐々に進行被災地も始まつた。道路による救援搬入もスタートした。あらゆる手だして「人を救へよう」、「助かる命」を助けた。

たゞ、震度7が被災地の余震も続いたため、地盤活動は震源に中断する余地がないからだ。「一次災害」で十分な対策をしてほし。